

PDCAサイクル実施状況

施設名：独立行政法人国立病院機構千葉医療センター

NO	区分	課題	P. 目標	D.検証方法	C.結果	A.改善
1	集学的治療・標準的治療等の提供	悪性所見がでた病理検査の周知	病理検査で悪性所見がでた症例の主治医への周知	医師事務補助者（MA）による電子カルテシステムを用いた連絡	<u>悪性以外で送信した方が良いか、迷う症例がある。</u>	<u>1. マニュアルをわかりやすく作成しなおす。</u> <u>2. 2名で行っている為、必ず2名確認する。</u> <u>3. 判断できない場合は病理医に確認する。</u>
			病理組織オーダー医への周知と外来、病棟主治医への周知	加テからオーダー医と主治医が一致しない場合は両者にMAから電子加テ上で連絡	<u>1. メール送信後に既読の有無を確認しているが、1週間未読のこともあり。</u> <u>2. メール送信後の既読の有無は確認できるが、その後医師が病理結果を開封したことまでは確認できない。</u>	<u>1. カルテで医師が病理結果を添付していることを確認する。</u> <u>2. 病理結果開封の有無が確認できるシステムの構築が必要。</u>
2	手術療法の提供	安全な手術療法の提供	左右マーキング、タイムアウトを行い、インフォームドコンセントと、医療安全の充実をはかる	タイムアウト実施状況の評価 左右のある臓器等疾患についてはマーキングを行う	・婦人科以外は全てマーキングを開始 ・全身麻酔症例は執刀前タイムアウト100%実施 <u>・閉創前のタイムアウトはタイムリーに手を止めて行えない</u>	・誰がマーキングをして、誰がOP室に申し送るかなどのシステムが各科で決まっていない ・ <u>閉創前のタイムアウトが全身麻酔で正しい方法で行えるようにする</u>
3	放射線治療の提供	放射線治療における医療安全確保	誤照射の防止及び患者情報管理の徹底	<u>放射線治療情報システム導入以後事前チェックリストの改定を行った。このチェックリストを確認し、再考した。</u>	<u>チェックリストを用いたダブルチェックの実施。また重複しているもの、効率的でないものを改善した。</u>	<u>より効率良く運用できるようにチェックリストを改定した。またヒヤリハット事例に基づきチェック項目の追加を行った</u>
4	化学療法の提供	①有害事象での治療中断	コントロール可能な有害事象の発症で、治療中断とならない	外来化学療法患者で治療途中中止・中断をした患者の人数（割合％）の調査	<u>昨年度はコントロール可能な有害事象での治療の途中中止は0%</u>	<u>今年度も有害事象対策に努めていく。</u>
		②勉強会の開催の未実施	地域医療機関医師対象に化学療法に関する勉強会を実施する	勉強会の運営、実施（1回/年以上）	<u>2/15「がん患者のアピランス」について講演会実施。外部含め参加者は105名</u>	<u>今年度も勉強会を企画していく予定。</u>
5	緩和ケアの提供	緩和ケアスクリーニング	がん患者の苦痛の早期介入の為緩和ケアスクリーニングを実施し、速やかに緩和ケアチームと連携する	入院緩和ケアスクリーニング実施数 972件→緩和チーム依頼数 54名（5.6%） 定期緩和ケアスクリーニング実施数 1,434件→緩和チーム依頼数18名（1.3%） 外来スクリーニング実施数 1,306件→緩和チーム依頼数6名（0.5%）	入院緩和ケアスクリーニング実施数1680名→要観察患者161名→緩和チーム依頼数98名、要観察患者からの依頼率60.9% 定期緩和ケアスクリーニング実施数1357名→要観察患者数83名→緩和チーム依頼数22名、要観察患者からの依頼率26.5% 外来スクリーニング実施数6203名→要観察患者数271名→緩和チーム依頼数6名、要観察患者からの依頼率2.2%	スクリーニングから抽出された要観察患者への支援の継続（カンファレンス・緩和ケア介入）
		後方病院の確保による在院日数の短縮	長期入院が見込まれる患者への退院支援早期介入	DPC期間Ⅲ超え入院患者数の確認 H29.5月時点 15人（83.5日）	<u>DPC期間Ⅲ超え入院患者数の確認 H30.5月時点 7人（100.8日）</u>	<u>今年度も継続して介入していく</u>

PDCAサイクル実施状況

施設名：独立行政法人国立病院機構千葉医療センター

NO	区分	課題	P. 目標	D.検証方法	C.結果	A.改善
6	病病連携・病診連携	放射線治療患者の確保	放射線治療患者数200件を上回る為に、紹介治療患者さんの確保を目指す	過去の紹介施設並びに近隣の放射線治療設備の無い病院を訪問し当院の放射線治療の体制を説明し紹介しやすい環境をつくる。当院で放射線治療が適応となりやすい乳がんについて近隣の外科、乳腺診療科の病院、診療所訪問し、当院への紹介を依頼する。	H27年 183件（うち他院紹介 14件） H28年 229件（うち他院紹介 27件） H29年 204件（うち他院紹介 10件）	1. 引き続き、近隣施設のニーズに応えられる環境整備に努める。 2. <u>放射線治療WGを発足し、骨転移症例スクリーニングによる介入を現在検討している。</u>
7	セカンドオピニオンの提示	セカンドオピニオン申込件数の増加	申込件数を年間10件以上とする	申込件数の集計	H27年度 5件 H28年度 4件 H29年度 9件	わかりやすい案内の再整備 ・ホームページ及び院内掲示工夫 院内掲示を1階,2階に行う
8	患者支援	相談支援の充実	・相談支援件数の増加 ・相談支援センターのアナウンス	・相談支援件数の集計 ・ポスターを掲示し支援センターの周知	平成27年度 892件 平成28年度 1170件 平成29年度 648件 <u>28年度から29年度にかけての相談件数の減少は病院全体の患者数の減に比例していると思われる。</u>	今年度も継続して実施する
9	がん患者の療養生活の質	がん患者の褥瘡予防への取り組み	終末期患者の褥瘡発生の減少	緩和ケアサポートナースと褥瘡サポートナースが協働して、年間計画を立案、実施、評価。また、各サポートナース会で勉強会を実施。 入院患者全員にマットレス選択表を使用し評価、適切なマットレスの選択ケア計画を立案している。各病棟カンファレンス、緩和ケアアウンド、褥瘡ラウンド等で適宜、マット選択ケアの評価を実施。	H28年度 9件（3.4%） H29年度 13件（3.1%）	今年度も継続して実施する
		がん患者への口腔ケアへの取り組み	がん患者の口腔ケアアセスメントができ、適切なケアが実施できる	入院患者全員に、入院時に口腔ケアアセスメント表を使用し、評価を実施している。評価を電子カルテに入力し、B、Cが付いた患者には看護計画を立案する。B,C患者には定期的に口腔ケアチームがラウンドを行っている。	がん患者に限らず全ての入院患者に実施できた。	今年度も継続して実施する
10	院内がん登録	生存率算出の積極的な取り組み	生存率算出における知識の向上	S P S S解析ソフトを元に生存率を算出	精度が低かった	院内がん登録の運用体制を抜本的に見直す
11	臨床研究・調査研究	臨床試験・治験の充実	臨床試験・治験件数の増加	CRCによるスクリーニング実施の充実	H29年度 治験被験者獲得数6人 ・疼痛緩和 2件 ・オピオイド 4件	<u>引き続き実施する。</u>

PDCAサイクル実施状況

施設名：独立行政法人国立病院機構千葉医療センター

NO	区分	課題	P. 目標	D.検証方法	C.結果	A.改善
12	研修	看護師に対するがん教育	1. 地域がん診療連携拠点病院としての役割を知る。 2. がんの病態と臨床経過及び看護を知る。 3. がん患者身体・精神的・社会側面において個別性を深めた看護実践をする。	コミュニケーション研修を企画、運営。 がん専門分野の認定看護師により「専門コース・がん看護基礎コース」を看護師に対する緩和ケアテキストを基に企画、運営。 近隣の医療施設の看護師も参加。 ELNEC指導者により「ELNEC-J 千葉医療センター」を企画、運営。近隣施設の看護師も参加。	コミュニケーション研修11名 <H29.10.14 9:00-17:30> 専門コース・がん看護基礎コース 4回コース 22名（うち院外 2名） ELNEC-J研修 4 1名（うち院外18名） <H29.7.9,10 9:00-17:30>	教育を受けた看護師のがん看護実践の質の評価
		医師に対する緩和ケア研修会	千葉県内のがん診療に携わる医師等が緩和ケアに関する基礎的な知識及び技能を習得する	平成28年9月3日 A 課程、B 課程を実施	H29実施<H29.9.3,10> A課程,B課程27名（院外17名）	千葉県内のがん診療に携わる医師への緩和ケア教育の継続
		全職員に対する緩和ケア研修・講演会	院内のがん診療に携わる医療従事者が緩和ケアに関する基礎的な知識および技能を習得する	院内緩和ケア勉強会 疼痛 医療安全共同勉強会 第1回 せん妄 名 第2回 せん妄 名 緩和ケア講演会 平成29年11月	疼痛勉強会<H29.5.25 18:00-19:00> 83名 せん妄講演会<H29.7.25 18:00-19:30>94名 緩和ケア講演会<H29.11.10 18:00-19:00> 74名（院外 15名）	病院全体教育を通じた緩和ケア教育、啓蒙活動の継続
		二次医療圏のがん診療に携わる医師等に対する研修会	二次医療圏の地域医療機関医師等を対象に化学療法・放射線療法に関する研修会を実施する	研修会の運営、実施（1回/年以上）	放射線委員会主催 「アピアランス研修」 H 3 0 年 2 月 1 5 日 105名（院外 3 5 名）	二次医療圏の地域医療機関医師等に対する教育の継続